

## 10. プンタ・デラ・ドガーナ（ベネチアの現代美術館）



プンタ・デラ・ドガーナはサンマルコ広場対岸の運河に挟まれた島の先端にある歴史的建造物（旧税関倉庫）を、ピノー財団＋安藤忠雄のコンビがコンペで選ばれ現代アート的美術館へ改修された建物である。安藤忠雄が建物内部改修を担当しており、既存煉瓦や石の壁を一つ一つ剥がしながら綺麗に直し、屋根を支える木のトラスを一本一本バラしながら補修していく手間をかけ綺麗にした空間を、コンクリート打ち放し壁で切り取りながら視線をつないでいる空間構成はニューヨーク現代美術館（MOMA）をも感じる。外観は既存のままであるが、建物内部に入ると初めに既存の高い天井（屋根を支える木のトラス組）と古いレンガ壁の空間にトップライトから優しい光が差し込む中にコンクリートとガラスでシンプルに作られた階段が気持ち良い。妻側に有る半円形の窓は壁に囲まれた薄暗い中に差し込む光の演出と共にベネチアを感じさせる外側の景色を覗き見たくなる。既存煉瓦壁と屋根・床を支える木の梁・トラス組の質感とコンクリート打ち放し壁・シンプルな床・ガラスの手摺が、互いを引き立たせ合いながらも落ち着いた居心地の良い空間で時間を忘れさせる。 （宮原 直行）